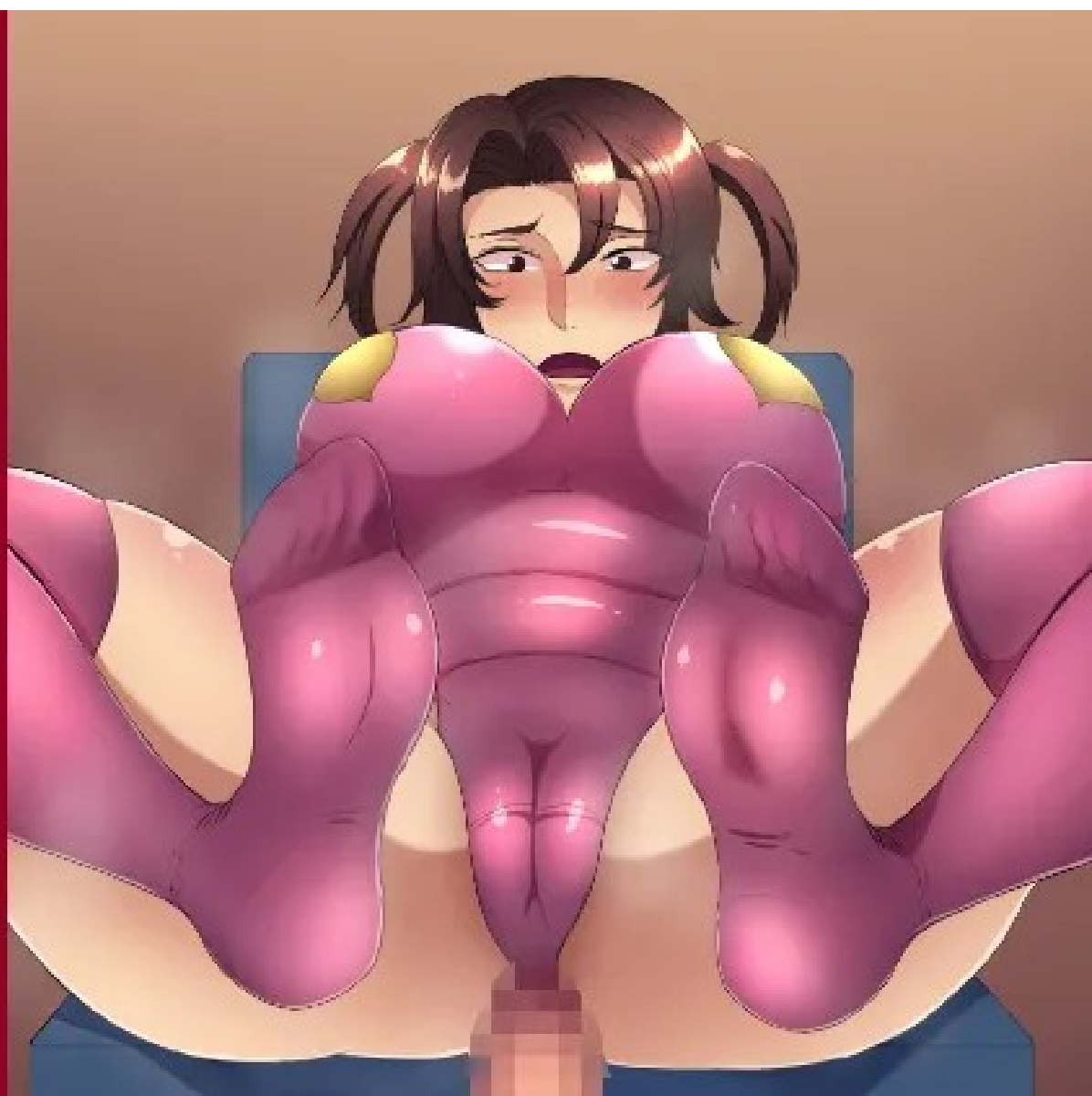


ともはは12





新しくできた
ママがいじめっ子に
犯される

お母さん、お母さん

お母さん、お母さん

人オオ

アハハ

お母さん、お母さん





僕の名前は幸之助

一年前友達家族と旅行中に事故に遭い僕と友達のママ加代さん以外はみんな死んでしまった

そして加代さんにママになってもらい生活していたある時から

学校でいじめに合うようになってきた

加代さんにバレないようにやり過ごしてきたけどとうとう

いじめっ子は美人の加代さんとセックスを要求してきた

いじめっ子は僕を縛り付け加代さんに僕の友達として近づいてきた

僕の友達だと思ってる加代さんは快く迎え入れるけど…

『じゃあ加代さんやらせてよ……っ！』

『え？なにいつてんだ？』

『セックスさせて欲しいんだよ』



『な、何考えてんだ！そんなこと
させるわけないだろ！！』

『まあまあそう言わずにさあ
おばさんも溜まってんじゃないノオ？』





『や、やめる！こんなことでできない！』

『そんなこといいっていいんすかあ？』

『ま、まごうのすけー!!』

『あんた知らなかったの？
幸之助は俺らにいじめられてたの』



『加代さんわかったっしょ
やらせてくれたらいじめやめるからさ♪』

『できなきや
こいつがどんな目にあうか
わかるだろ?』



『わかったから……言う通りにするから
あの子と関わらないでくれ……』



『これで…いいのか？』

『いいねいいね』

『その調子で幸之助に足コキしてあげてよー！』

『なんでだよ！お前とセックスするんじゃないのか？』



『いいから幸之助守りたいなら言う通りにしろよ！ババア！』

『くそ…わかったよ…ごめんな幸之助…』

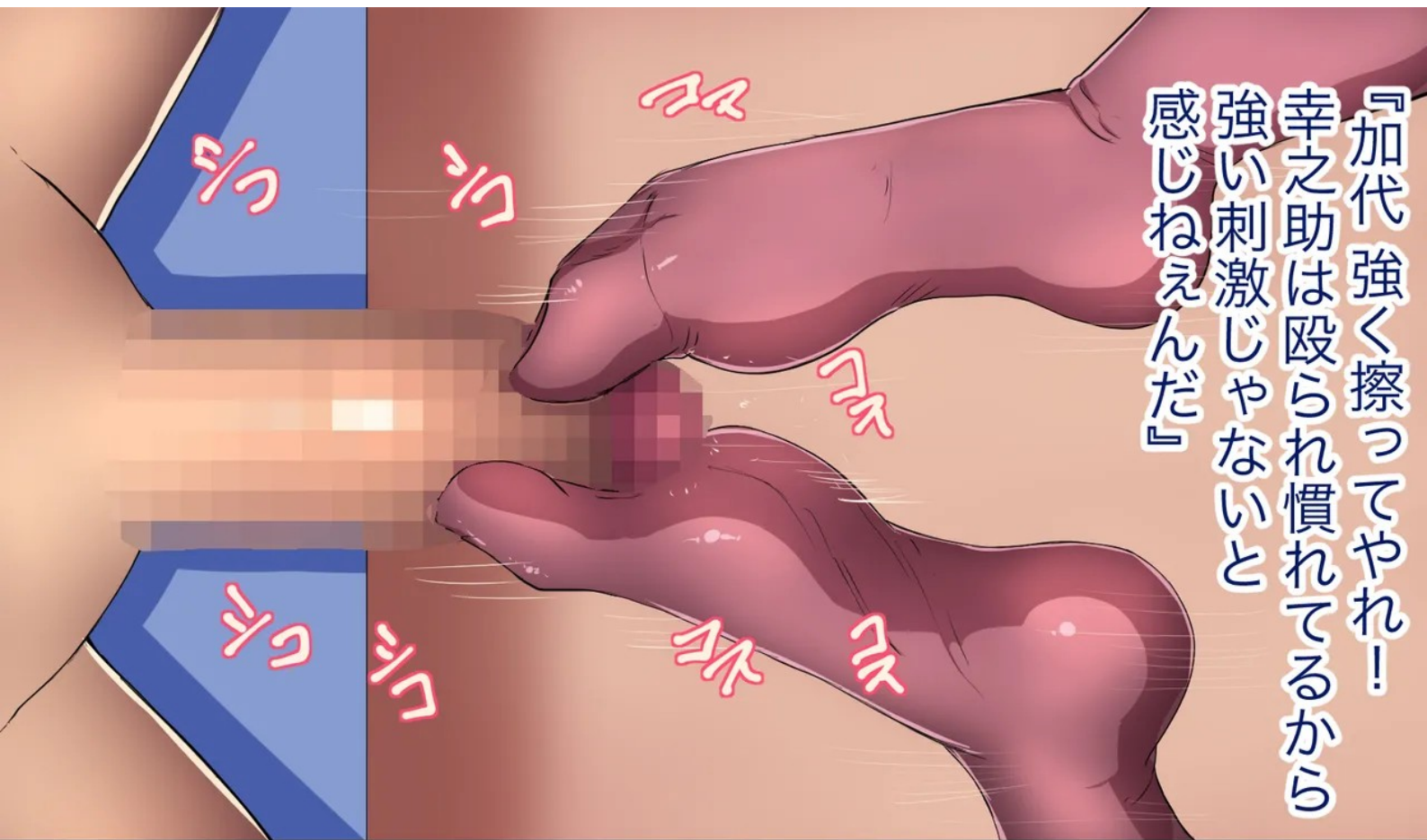
『幸之助…』

いやだと思っけど我慢してくれ…』

『僕は大丈夫』

加代おばさんのこと好きだから…』





『加代強く擦ってやれ！
幸之助は殴られ慣れてるから
強い刺激じゃないと
感じねえんだ』



ごめん…幸之助
気づいてやれなくて…



『気持ちイイ…
もっと強く…』







『ほんじゃ
そるそる入れますか!』

『思いーちよつと待て
せめてゴムは着けてくれ。。。』

『はあ?何ってんだよ。。。』

『そんなもんつけたら
気持ちよくねえだろうが!!!』



ズンズン

『あれ？
入れただけでいっちゃったの？
力仕事してるだけあって
オマンコの締めりいいね♡』

生ちゃんぽ
やばすぎる…







『中には出すなって言っただる…』

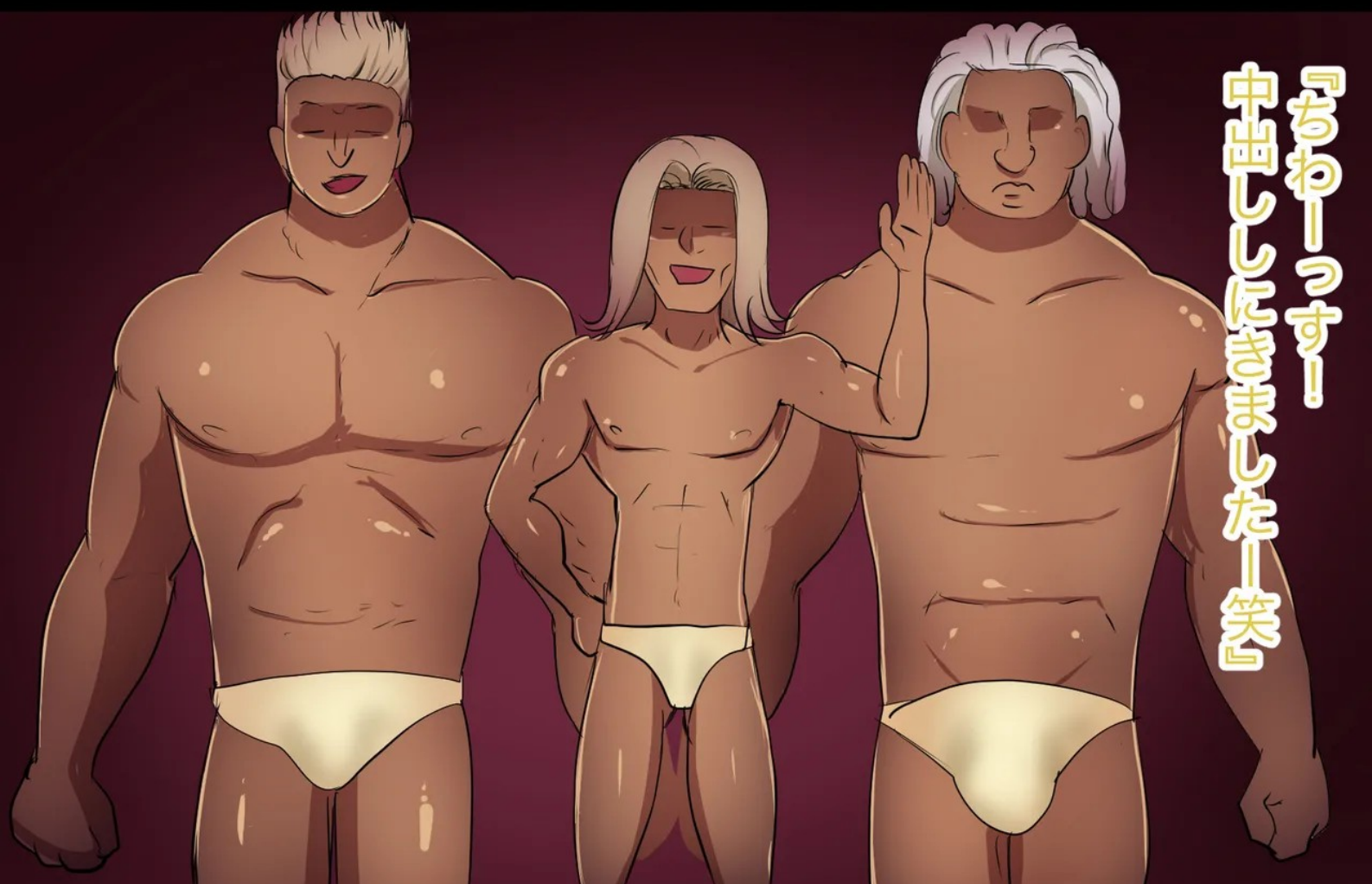
『まあまあ大丈夫だよ』

『ピルもあるし気持ちよかったっしょ?』

『それにまだまだ
気持ちよくなりたい仲間たちもいるからさ』

『は?これでもう終わりだろ…?』

『ちわーっす!
中出ししにきましたー笑』



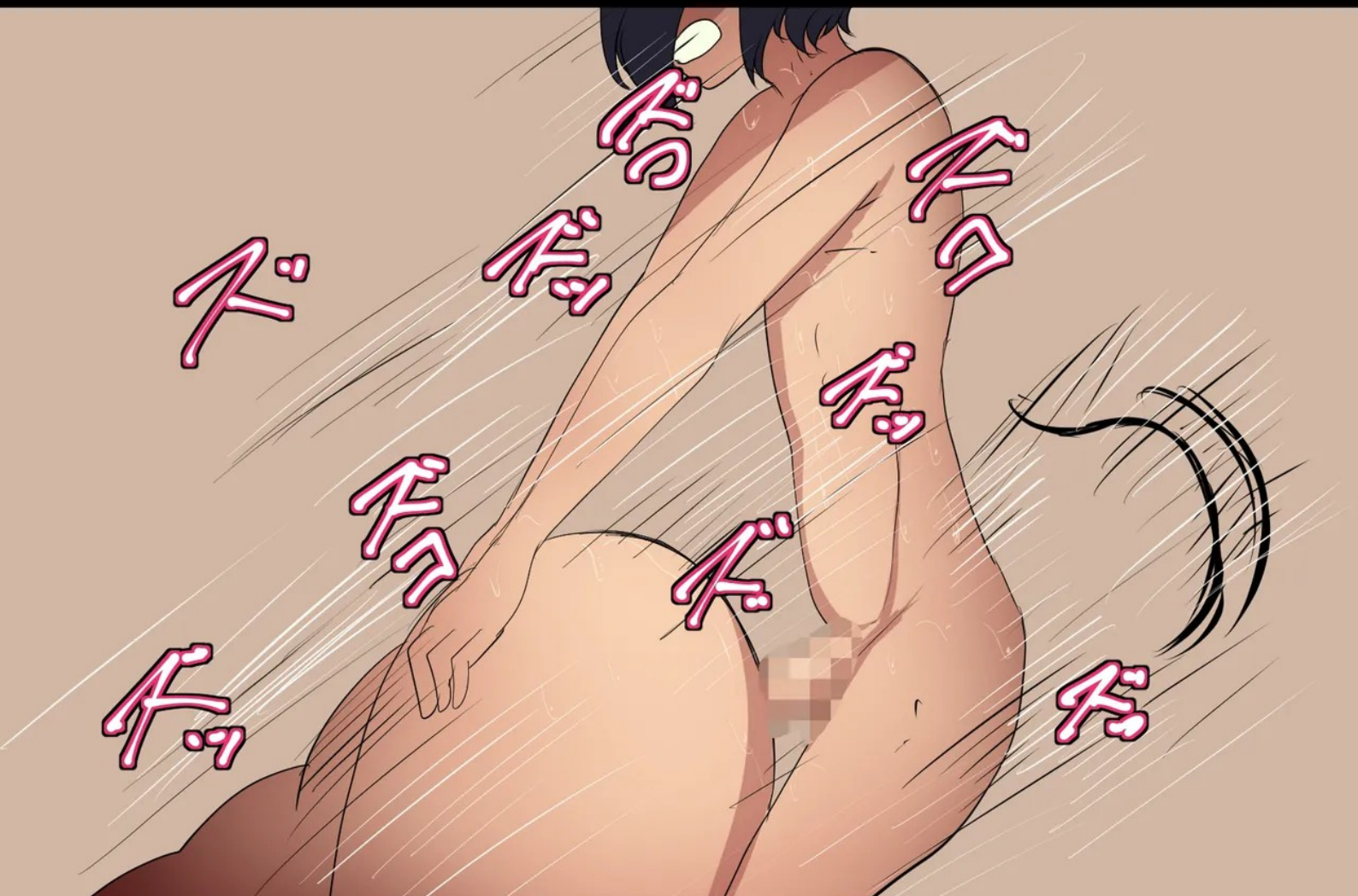
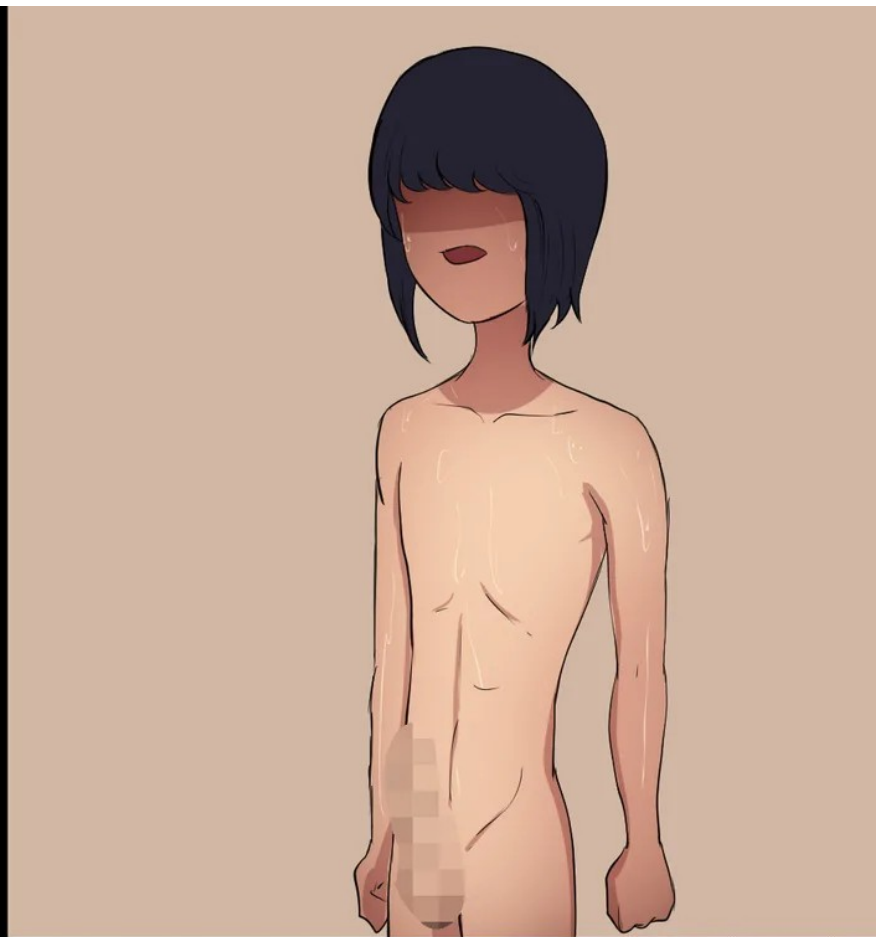
一時間後

『あー満足した♪』

『よっしゃこれから飲みに行くかー』

『幸之助も開放してやるから
そのババアなんとかしとけよ!』







数日後
加代さんは僕の女になった
いつも通りの会話が続く中
僕らはもう男女の関係だった





今は僕らしか家族はいないんだから
いっぱいセックスして

家族を増やさないとね！



終わり













